

# 平成 28 年度 事業報告



## 玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みます。また同時に、少子高齢社会を迎えた社会に的確に対応できる人材の養成に取り組みました。
2. 研究面については、教員と学生の研究・症例研究活動の充実を図り、教員のみならず学生における現状の深層理解と改善能力のスキルアップを図りました。
3. 臨床実習を基軸として、現在の医療・福祉現場の理解を深め、地域貢献の充実を含む現状の改善・改革を推し進めました。
4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに、加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 平井 義一

### 教学の充実

#### ■カリキュラム

保健・医療・福祉のスペシャリストの養成校として、保健看護学科、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科において、それぞれの学科で目指す国家資格に係る分野の基礎から専門基礎、専門へと体系的なカリキュラムを構築し教育を行いました。

#### ■教育改革

現在の社会が求める保健・医療・福祉のニーズに合った教育を追及するために、保健・医療・福祉の第一線で活躍する非常勤講師や臨床実習の指導者と連携し、最新の保健・医療・福祉の現場で必要とされる知識や技能について情報交換を行い、現場で必要とされる最新のニーズを意識した教育内容について検討を行いました。

#### ■FD推進

多様な学生に対応するための教育・指導力向上に取り組みました。具体的には、教員自身で行う自己点検評価、学生による授業アンケートの実施（前期・後期）、校長、副校長などによる授業観察を実施しました。

また、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会への参加、論文発表、セミナーへの参加を促進しました。

## ■教員定員

医療・福祉の専門職の養成校として、学科ごとに法令で定められた定数の教員を確保しました。

## 研究の推進

### ■研究活動の推進

(1) 教員の研究活動を推進しました。本校の主たる目的は教育活動であることは言うまでもありませんが、同時に研究活動を通じて最新の研究成果を学生に還元することも重要と考えます。そのため、学校全体あるいは学科の教育活動とのバランスを考慮し、可能な限り研究活動を行える環境を整えサポートしました。

具体的には、教員に対する個人研究費を付与、大学院への進学許可およびイベント実施日の勤務体制の配慮、研究推進のための施設設備の利用許可などの支援を行いました。

(2) 学生の研究能力の開発を推進しました。保健看護学科では、看護研究の意義と目的を理解し、研究の進め方と方法の基礎的知識を得ることをねらいに講義・演習を行いました。特に、3年次・4年次の看護学実習を通して、自らの体験を振り返り、客観的に見つめ直し、患者の反応の意味や看護の価値、よりよい援助の在り方、看護の現象を考えていけるよう、ケースレポートの作成に段階的に取り組ませ報告会で共有しました。理学療法学科、作業療法学科では3年次後期からグループ研究を開始し、4年次後期に発表会を行いました。また、介護福祉学科では、2年次前期には事例研究を後期には別の事例研究を行い個々が発表する機会を設けました。

### ■学内紀要への積極的投稿

昨年に引き続き紀要を作成しました。例年、2年に1回のペースで発行していましたが、研究を奨励し、研究成果を発信する機会を設けるために昨年に引き続き今年度も発行しました。

今年発刊した第11巻では、6件の研究および2

件の報告が寄稿されました。

## 学生支援

### ■修学支援

(1) 新入生の基礎学力を向上させるためのリメディアル教育を充実させました。

新入生の学力を把握するために前期の授業が始まる前に基礎学力試験を行いました。試験の結果を踏まえ、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによるきめ細かなリメディアル教育を実施しました。

(2) 学生個々の学力に合った指導を充実させました。

授業の前後、放課後および空きコマを利用し、学生への個別相談や個別指導を行いました。特に小テストなどで理解度を確認し、講義内容への理解が不十分な学生には教員が積極的にアプローチし学生の理解度を高めるための指導を行いました。

### ■海外研修の実施

9月6日から9月17日、アメリカ研修を実施しました。学生8名と引率教員2名で研修団を結成。シェネンドア大学(ウィンチェスター市)での研修、ホームステイ、首都ワシントンDC、ロサンゼルスなどで文化体験を行いました。

### ■障がい学生等の支援

現在、障がい学生が在籍していないが、受け入れに関する相談、支援体制の充実を検討しました。

### ■生活支援

(1) チューター、コーディネーター制の導入によるサポート体制を充実させました。保健看護学科では、1学年に2名のコーディネーターを配置し、実習指導で手薄になった際にもサポートができる体制を整えました。

また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では担任制を導入し、きめ細かなサポートを実施しました。

- (2) 外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の現役の心理士を招き、定期的にカウンセリングを行いました。カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設けるなど学生のプライバシーに配慮し、学生が相談し易い環境を整備しました。
- (3) 無料のスクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間で運行し、遠方から通学する学生のサポートを継続しました。
- (4) 部活動を奨励するとともに活動を支援しました。軟式野球、サッカーを始め多くの運動系とハンドクラフト、手話などの文化系の部が活動しています。活動の成果として平成28年度岡山県専門学校交流スポーツ大会で総合優勝を果たしました。また、硬式テニスと卓球は、岡山県内の予選を勝ち抜き、全国大会に出場しました。部活動が安全かつ活発に行えるよう教職員が顧問に就任し、練習する曜日を定め活動しました。

顧問が不在時などは、活動ができるよう代理顧問が活動を見守る体制を整備しました。また、大会直前には、学生の意向を尊重し追加練習に付き合うなど正課外活動の人的支援を行いました。

また、全国大会に出場が決まった際には、教職員を対象にした支援金の募集活動や同窓会と連携した遠征費の一部支援を行いました。

#### ■就職支援

- (1) 求人情報を素早く開示し、学生の就職活動を支援しました。寄せられた求人は、内容を確認出来次第、学生がいつでも閲覧できるよう開示をしました。
- (2) 各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。
- (3) 保健看護学科では、1年次から4年次へと段階を踏んだガイダンスを実施し、入学後から就職に対する意識付けを行いました。

#### ■その他

- (1) 学生指導主任者を選任し、責任を持って学生指

導を行いました。また、定期的に各学科の学生指導主任者と事務局で会議を開き、学生指導に関する協議を行いました。

- (2) 学生総合補償の保険料を学校が負担し全学生が安心して学内での学習、学外での実習並びに部活動ができる環境を作りました。

- (3) 学科・学年ごとに最適な時期に教育・進路懇談会を実施し、学生の学校生活、家庭での状況などの情報を共有し、学生の変化に即応できるよう保護者と教職員が連携した学生サポートを行いました。

## 社会連携・社会貢献

#### ■行政機関との協定

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ生涯教育に関する出張講義、地元の中学生、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつりなど地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくなくてはならない存在として貢献しました。

#### ■公開講座

医療・保健・福祉に関する最新情報を提供し、市民の暮らしをサポートしました。今年度は、『健康たまの』をテーマに、10月8日を皮切りに、「健康寿命をのばす」、「食中毒について」、「いつまでも自分らしく生活を送るために」をテーマに3回の講座を実施しました。

#### ■地域活動への参画、国際交流への参加

- (1) 各種イベントへ参加し、地域に貢献しました。

玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバル(7月)」に参加し、無料の健康増進体験ブースを出店しました。

また、玉野の中心地で行う盆踊り大会「かつから祭り(8月)」では、今年度は約100名の学生並びに教職員が踊り連に参加しました。

(2) 海外からの研修団受け入れ、外国との交流を行いました。学校法人加計学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学、同 フィンドリー大学から訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。主な取り組みとして英語による学科紹介、日本の文化体験として餅つき体験などを行い、最後にソーラン節を全員で踊り、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力的一端を経験しました。

### ■ボランティア活動

地域からの要望に応えた連携協力活動を実施しました。学生ボランティアの募集情報は内容を精査し学生掲示板に掲示、あるいは直接説明を行いました。また、ボランティア活動を学習成果の一部として認定する学科もあり積極的に推進しました。

## 教育環境

### ■設備の充実

教育環境を充実するために備品を購入しました。具体的には、保健看護学科の演習用に看護実習、介護実習、吸引実習用モデル、吸引実習機器、授業支援用に ipad air2 を購入しました。また、理学療法学科では、心拍変動測定器一式、最新の理学療法であるスリングエクササイズで使用するレッドコードメディアカルプロを導入しました。また、大幅なカリキュラム改定に対応するよう教務システムをリプレースしました。

## 学生の受入

### ■学生の受入方針

学生の能力、適性、可能性を確認し、優れた人材の確保に努めるために、志望理由書などの書類審査、面接審査、口頭試問、小論文審査、筆記試験などによるさまざまな選考方法で入試を実施しました。

### ■入試方法等

AO入試を始め、特別入試、推薦入試、社会人入試および一般入試など多様な入学試験を実施し、多様な学生を選抜しました。また、岡山県以外からの入学希望者に応えるために地方会場も設けました。

### ■オープンキャンパス

多様なオープンキャンパスを実施し、本校の魅力を伝えました。平成27年度オープンキャンパスの開催日数及び内容に新たな内容を加え、高校生や保護者に魅力あるイベントを実施しました。

また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し、送迎のためのバスを運行しました。

### ■職業訓練生委託事業

行政が行う職業訓練事業(介護福祉士養成)に応募し、訓練生を受け入れる体制を構築しました。

## 内部質保証

### ■自己点検

自己研鑽、検証制度を実施し、PDCAサイクルによる目標、実行、検証、改善について自己点検・評価を実施することで学生への教育力向上に役立てました。

### ■内部監査

授業観察を実施し、教育向上に努めました。専任教員を対象に授業観察を実施し、授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、学科長、事務室長が観察を行いました。

### ■学外者の意見の反映

学外者の意見を反映し、教育の充実、改善を図るための外部評価委員会に関する規程の整備を開始しました。

## その他の取組等

### ■正課外活動の支援

保健、医療、福祉分野のアルバイトを紹介し、授業の理解や臨床実習などの実習教育に結びました。

## 人事・組織

### ■適切な人材の確保、配置

適正な教職員を確保し適切な配置により、教育の充実を図りました。

## 主な行事

4月4日	入学宣誓式
5月7日	宣誓式（保健看護学科）
5月22日	第1回オープンキャンパス
6月15日	AO入試エントリー開始
6月24日	第2回オープンキャンパス
7月1日	国際交流（外国人研修団受入）
7月2日	岡山県専修学校交流スポーツ大会
7月23日	第3回オープンキャンパス
7月23・24日	たまの・港フェスティバル
8月6日	第4回オープンキャンパス、玉野まつり
8月27日	第5回オープンキャンパス
9月3日	教育進路懇談会（介護福祉学科）
9月6日～	海外研修（アメリカ合衆国）
9月17日	教育進路懇談会（保健看護学科、理学療法学科）
9月24日	第1回入試説明会
10月4日	宣誓式（介護福祉学科）
10月8日	公開講座（1回目）教育進路懇談会（理学療法学科）
10月15日	特別入試、社会人入試Ⅰ期他
10月22日	公開講座（2回目）
10月23日	教育進路懇談会（作業療法学科）
10月28・29日	優勇祭（学校祭）
11月5日	教育進路懇談会（保健看護学科）
11月12日	推薦入試Ⅰ期
11月19日	公開講座（3回目）
12月10日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期
12月17日	第2回入試説明会
12月下旬	壮行式（理学療法学科、作業療法学科）
1月11日	鏡開き（介護福祉学科）
1月28日	一般入試Ⅰ期
2月下旬	国家試験受験
2月25日	一般入試Ⅱ期
3月4日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月11日	教育進路懇談会（保健看護学科）
3月17日	実習指導者連絡会議
3月25日	第6回オープンキャンパス
3月27日	一般入試Ⅲ期



## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	39	160	155
	理学療法学科	40	35	160	154
	作業療法学科	40	19	160	88
	計	120	93	480	397
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	9	80	34
	計	40	9	80	34
合 計		160	102	560	431

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	104	100	100	100%	2	36	4	30

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山医療センター、岡山県精神科医療センター、岡山赤十字病院、岡山労災病院 吉備高原医療リハビリテーションセンター、特別養護老人ホーム 若宮園 他
-------	---

### ■教職員数

(平成28年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	1	30	32	8

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		28年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	449,017	488,816
	経常費等補助金	26,027	25,039
	その他収入	35,399	13,687
	計	510,443	527,542
教育活動 収支	支出		
	人件費	392,375	393,797
	教育研究経費	102,353	107,572
	管理経費	39,846	40,855
	その他支出	225	42
計	534,799	542,267	
教育活動収支差額		△24,356	△14,725
教育活動外 収支	収入		
	受取利息等	1	29
	借入金利息等	0	0
教育活動外収支差額		1	29
経常収支差額		△24,355	△14,696
特別 収支	収入		
	資産売却差額等	1,545	0
	資産処分差額等	16	0
特別収支差額		1,529	0
基本金組入前収支差額		△22,825	△14,696
基本金組入額合計		△6,333	0
当年度収支差額		△29,158	△14,696